

発展的な学習～四大文明を扱う

桐生市立広沢中学校 森尻利明

1 はじめに

「四大文明を1つ取り上げ、その特徴を調べ、発表しよう」という課題を設けると、生徒はどの文明を選択するだろうか。学習指導要領改訂による内容の重点化と精選の対象として、「世界の古代文明」については、「中国の古代文明を例として」扱うことになった。それは日本と最も関係の深い古代文明を学ぶことによって、日本列島を中心とした生活の変化に重点を置いて見るという観点に起因している。しかし、入学当初の1年生、今後の壮大な歴史ドラマを学ぶ生徒にとって、中国文明だけの古代文明では物足りないであろう。そこで、発展的な学習として四大文明（ギリシア文明・ローマ帝国を含む）を扱った授業実践例を紹介していきたい。

2 小单元「人類の出現から文明の発生」

(1) 単元のねらいと内容の構成

学習指導要領によると、この中項目では、「人類が出現し、やがて世界の古代文明が生まれたことと、また、日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が、農耕の広まりとともに変化していったことを理解させる」ことをねらいとしている。ここでは、従前「文明のおこり」「日本人の生活の始まり」の2つの項目に分けていたものを、日本列島を中心とした生活の変化に重点を置き、1つの中項目に構成されている。また、内容の取り扱いとして、「世界の古代文明」については、中国の古代文明を例として取り上げ、生活技術の発達、文字の使用などに気付かせるようにすること、また、稲作が大陸から日本列島に伝わったことに気付かせるようにすること、とある。中国の古代文明の内容としては、「祭器や農具などの金属器の使用、灌漑、漢字の発生など」を取り上げる。

(2) 単元構成…4時間 (◎印は本稿に関連する)

- 1 「東アジアにあらわれた人類」
- ◎2 「東アジアの先進国・中国の文明」
- 3 「縄文・弥生時代のくらし」
- 4 「むらとくにの登場」

<発展的な学習…2時間>

- ◎1 「エジプト・メソポタミア・インダス文明」
- ◎2 「ギリシア文明・ローマ帝国」

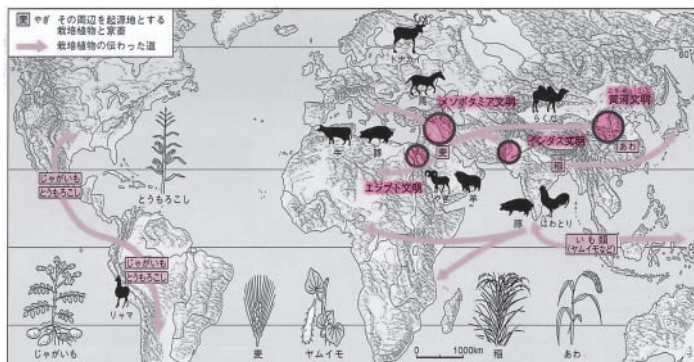
副教材として歴史資料集を活用している学校は多いと思われる。この資料集をもとに古代文明についての学習計画を構築していく。人類の進化についても、猿人だけでなく、道具の発達や脳の大きさの変化を含めて比較させる。

私は、「東アジアの先進国・中国の文明」を学習した後の発展的な学習として「エジプト・メソポタミア・インダス文明」「ギリシア文明・ローマ帝国」の2項目を計画した。四大文明として考えると「エジプト・メソポタミア・インダス文明」で充分であるが、今後の飛鳥文化（法隆寺）等の国際的な要素をもった文化の扱いや、3年次の「修学旅行」「総合的な学習」との関連も考慮すると

「ギリシア文明・ローマ帝国」も欠かせない。ただし網羅的には扱わないよう配慮していきたい。

3 授業の展開例

(1) 古代文明を調べよう



▲①おもな栽培作物の起源 「栽培植物と農耕の起源」ほか

人類は「狩猟・採集」から「農耕・牧畜」への時代へと変化していき、定住生活が始まった。

「栽培植物と家畜の起源・伝来」を見て気付いたことを発表する。「稲はインドから中国を経て日本に伝わった」「麦は中国やヨーロッパにも伝わった」「じゃがいも・とうもろこしはアメリカ大陸から伝わった」「らくだ・トナカイ・やぎ・牛・馬・リヤマなどの家畜を見るとその地域に住む人々の生活に密着していることがわかる」等、この資料からは、気候や立地条件等、地理的分野とも密接にかかわった多面的な見方が培われる。

(2) 「東アジアの先進国・中国の文明」について調べよう。(1時間)

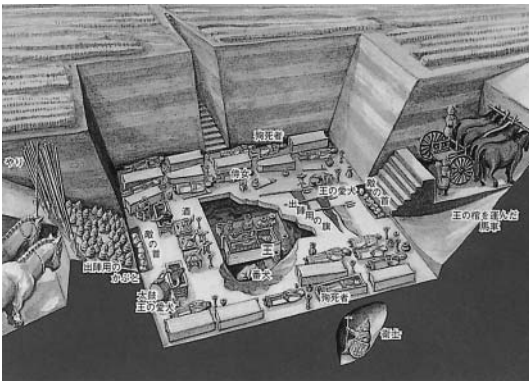
四大文明のうち、日本に稲作を伝えた中国文明について学習することを確認する。ここでは日本への影響だけでなく、西アジアやヨーロッパ世界との東西交流についても関連づけて学習する。

〈黄河の流域に栄えた文明〉

殷王の墓、漢字の成り立ち(甲骨文字)、故事成語、青銅器、孔子の教え(儒教)

〈中国文明の変化〉

秦の中国統一、始皇帝、万里の長城、漢との東西交流(シルクロード、馬、紙、仏教)



殷王の墓

資料集「殷王の墓」を見せ、死後の世界でも生前と同じように生活ができるように、生活や戦いの道具、家来や奴隷までいっしょに葬られたことを指摘させる。甲骨文字からは、占いによって政治や祭りが行われていたことや漢字の成り立ち(教科書p.33「ことはじめ・文字」)について学ぶ。教科書p.32②の青銅器については、私が以前、台北の故宮博物院で購入した複製品を教材として示



▲②青銅器 表面にはこまかい加工がほどこされています。

帝国書院「中学生の歴史(最新版)」p.32

し、青銅器の質感や用途に気付かせるよう工夫する。孔子の教え(教科書p.33「儒教の影響」)や故事成語については、道徳や古典との関連を図ることができる。秦の始皇帝については、教科書p.33③④の「兵馬俑」「万里の長城」等から判断し、強大な権力を握って中国を統一した反面、人民を苦しめたことを理解させる。漢の成立については、シルクロードを通じた東西の交流に着目し、朝鮮や日本との関連につなげるようにしたい。私は全盛期の皇帝(武帝)とその家来(ちゆうけん)を取り上げ、万里の長城を越えて領土を拡大したことや馬を求めて西域に出かけたことにふれる。またNHKの歴史番組から「項羽と劉邦」(史記)を紹介し、この時代の武将の生き方を学び、古代文明の学習を通して歴史のおもしろさを喚起したい。

〈中国文明についての発展的な学習〉 参考文献

中国文明をより発展させて学習するには詳しい知識が必要である。中学生にも容易に理解でき、基本的な入門書として扱うことができる。本単元を扱うとき、ぜひ参考にさせていただきたいと思う。

◎印は教師向け、○印はコミック版。

- ◎中国小史「黄河の水」鳥山喜一著、角川文庫
- ◎中国の歴史(上) 貝塚茂樹著、岩波新書
- ・「秦の始皇帝」吉川忠夫著 中国の英傑
- ・「項羽」村松暎著 1～3巻
- ・「漢の武帝」福島吉彦著 集英社
- ◎「漢の武帝」吉川幸次郎著、岩波新書
- 「史記」全15巻、横山光輝著、小学館
- 「項羽と劉邦」全21巻、横山光輝著、潮出版社
- ・「楼蘭」「西域物語」、井上靖著、新潮文庫

(3) 四大文明について調べよう。(1時間)

中国文明を学習した後、①「おもな栽培作物の起源」(教科書p.32)にもどり、中国の他にも文明がおこったことに着目させ、発展的な学習として、エジプト・メソポタミア・インダス文明の順に学習することを確認する。ここでは3つの文明を単に羅列するのではなく、とくにエジプト文明に力点を置いて学習課題を設定する。次時の学習「ローマ帝国」との関連をはかる。

〈エジプト文明〉

ピラミッド・スフィンクス、ナイル川、太陽暦、象形文字、クレオパトラ

〈メソポタミア文明〉

チグリス川・ユーフラテス川、くさび形文字、太陰暦・7曜制・60進法、ハンムラビ法典

〈インダス文明〉

モヘンジョ＝ダロ、カースト制、シャカ

四大文明について生徒に問うと、まず最初に挙がるのが「ピラミッド」「スフィンクス」である。テレビや本から得た知識や謎に満ちた古代文明に興味を湧くのは当然であろう。ここでは、各文明のおもな特徴がつかめるようにしたい。象形文字については、教科書p.33欄外の〈もっと知りたいあなたへ〉の項目に関連づけてもよい。

(4) ヨーロッパの文明について調べよう。

(1時間)

四大文明学習後、さらに発展的な学習としてオリエント(エジプト・メソポタミア文明)から影響を受けたヨーロッパの文明(ギリシア文明・ローマ帝国)について学習することを確認する。ここではギリシア文明を継いでローマ帝国が繁栄したこと、ヨーロッパの世界の成立に大きな影響を及ぼしていることを学習する。

〈ギリシア文明〉

ポリス(アテネ・スパルタ)、マラ톤の戦い、オリンピック

〈ローマ帝国〉

コロセウム、カエサル、キリスト教、「すべての道はローマに通ず」、シルクロード

地中海沿岸にポリス(都市国家)が点在していたこと、その代表としてアテネ・スパルタを取り上げる。オリンピックやマラソンの起源について調べることは生徒にとって興味深い内容である。

ローマ帝国については、カエサルやクレオパトラ・キリストなどの人物を具体的に示し、地中海沿岸を中心にヨーロッパの世界が形成していく基盤を学習する。シルクロードを通じた中国・日本との文化交流や宗教改革・キリスト教の伝来等、後の単元(題材)と関連する事象は多い。

〈ローマ帝国についての発展的な学習〉 参考文献

◎「ローマの歴史」

I.モッタネリ著/藤沢道郎訳、中公文庫

(5) 生徒の反応・学習の成果

生徒が毎日活用している歴史資料集には、「発展的な学習」にふさわしい教材がたくさん掲載されている。内容の精選や重点化により、学習する内容が減少し、それとともに歴史に関する興味がしぼんでしまうのは残念である。生徒は、今、さまざまな知識を求めている。「雑学を学ぶことは無駄ではないこと」をテレビ番組などから身に付けているからである。授業時数との関連もあるが、「発展的な学習」を効果的に実施できれば、生徒はもっと調べてみたいという心理が働き、学ぶ意欲は高まってくるであろう。授業終了後の生徒の感想として、「お父さんから歴史小説を借りて読むようになった」「NHKの歴史番組を楽しみにしている」など、積極的に話すようになり、生徒の歴史に関する意欲は飛躍的に向上している。

4 まとめと今後の課題

群馬県では、2003年度より「個を伸ばすための学習」として、「単元(題材)の目標に基づいて共通に取り組む学習」に加えて、「基礎・基本を確実に身に付けさせるための補完的な学習」や「学習をさらに深め、広げるための発展的な学習」に視点をあてた実践研究が進んでいる。県内では、8割の小中学校で「補完的な学習も発展的な学習も実施している」と回答し、全国と比べると非常に高い割合をしめている。個性の一層の伸長を図るという観点から、さらに伸びる力のある生徒には、その機会を保障したり適切に評価したりすることが大切である。今後の課題として、「補完的な学習や発展的な学習で使える教材開発」を積極的に進めていきたい。